

久松地区における市道山の手通り 街なみ環境整備について

～現代と江戸時代、明治・大正をつなぐ空間づくり～

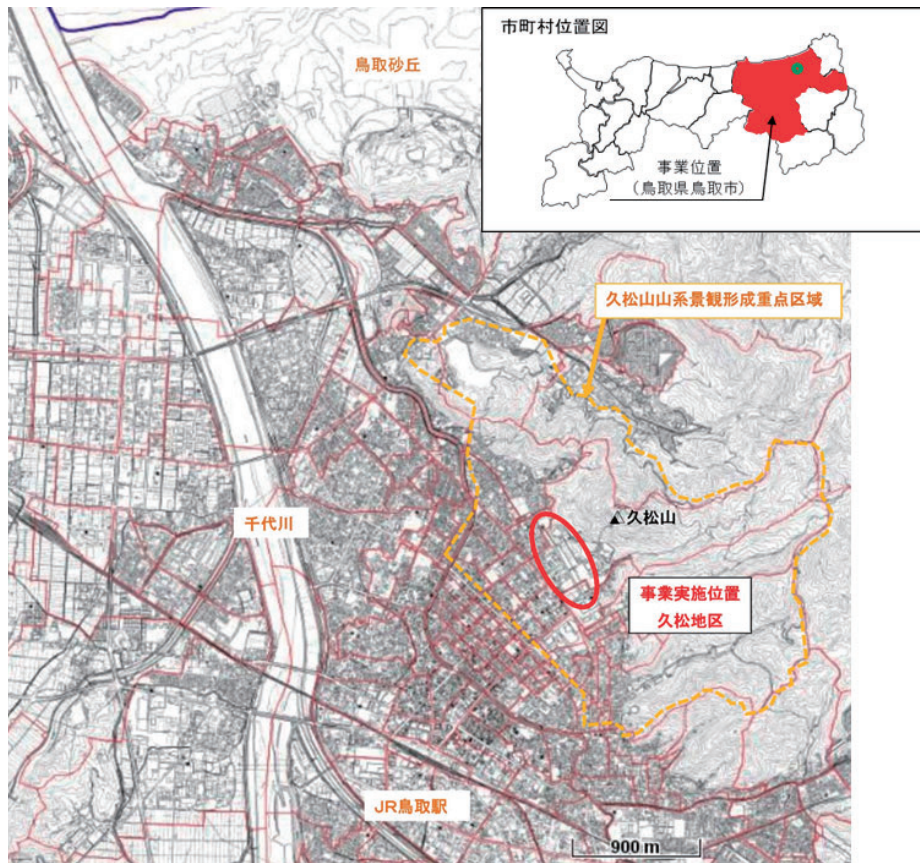
鳥取市 都市整備部 都市企画課

1. はじめに

鳥取市では「鳥取市景観形成条例」及び「鳥取市景観計画」を策定し、本市が誇る自然景観の保全や歴史的・文化的資源等を活用した良好な街なみ環境の整備に取り組んでいるところです。中でも久松地区は歴史・文化・自然等の地域資源を有する地区であり、「鳥取城跡保存整備基本計画」に基づいて進めている史跡鳥取城跡の整備と一体的に道路の美装化や無電柱化を行うことにより観光振興及び地域活性化に取り組んできました。

今回は、久松地区で実施した「市道山の手通り街なみ環境整備」について紹介させていただきます。

2. 久松地区について



久松地区は、鳥取駅から北へ約2km、鳥取城跡のある久松山山麓に位置し、町割りと呼ばれる道路、宅地の配置は近世城下町の構造を良く保ち、周辺には歴史的に貴重な資源が点在する地区です。しかし、

鳥取大地震や鳥取大火の被災などにより連続した形での伝統的、文化的な個性を持った街なみがほとんど残っていないため、地区周辺に点在する歴史的資源とともに観光振興を図るための城下町の歴史的特性を活かした街なみをどのように創出するかが課題となっていました。

平成20年3月に策定した「鳥取市景観計画」では、歴史・文化、自然等の特色が象徴的に現れ、良好な景観形成が特に必要とされている区域として“久松山山系景観形成重点区域”を指定しています。歴史・文化と自然が調和した景観づくりを進めていくための土壌づくりとして、歴史的建造物、史跡、文化財等と一体となった自然景観の保全を方針に掲げ、景観誘導を行っています。

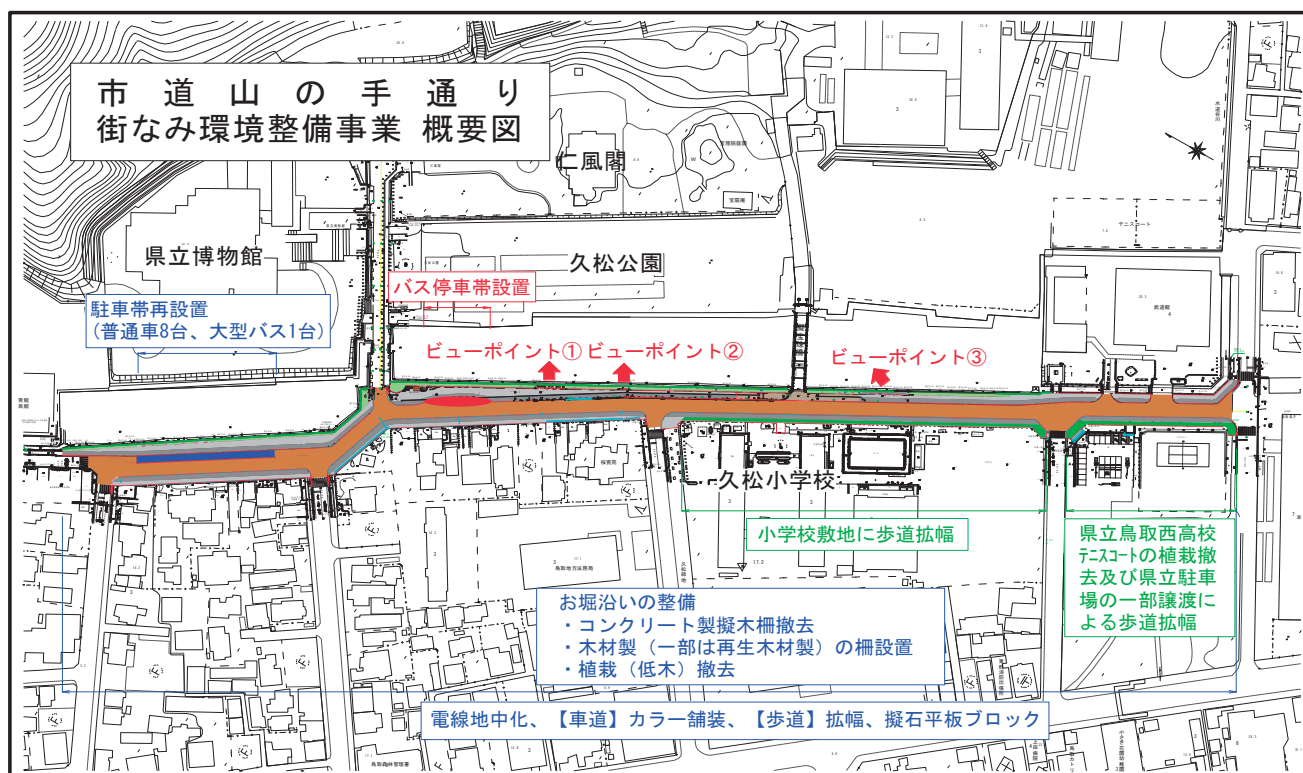
この「鳥取市景観計画」の方針と、「鳥取城跡保存整備基本計画」に基づき整備が進められている鳥取城跡を一体として捉え、鳥取城跡を拠点とした市内周遊の実現を図るため策定した「鳥取城跡周辺にぎわい交流ビジョン」の具体策として「市道山の手通り街なみ環境整備」による道路の美装化や無電柱化を実施し、この区域の観光振興、地域の活性化を図っています。

3. 市道山の手通り街なみ環境整備の概要

事業期間は平成26年度から令和2年度までの7年間であり、自歩道・車道の再配置、舗装の美装化、柵や植栽の整理、無電柱化を実施しました。事業費は約8億円です。

(1) 計画コンセプト「現代と江戸時代、明治・大正をつなぐ空間づくり」

市道山の手通りは、現代の中心市街地から、江戸時代の姿に復元される「^{おおてとじょうろ}大手登城路」や、明治時代に皇太子嘉仁親王（のちの大正天皇）の山陰行啓時の宿泊施設として建築された国指定重要文化財「^{じんふうかく}仁風閣」、大正時代に開園した「久松公園」へ移行するエントランスに位置するため、これらに来訪者を誘う雰囲気づくりを目指しました。一方で、市立の久松小学校や北中学校、県立鳥取西高等学校への通学路でもあり、歩行者の安全性を確保する等の機能性にも配慮しています。



(2) 整備方針

道路の機能確保を前提としながら、江戸時代の景観に復元された擬宝珠橋（ぎぼしぼし 大手橋）、中ノ御門表門、久松公園の景観との調和を図ることに重点を置くとともに、ビューポイントを選定し歩道に滞留空間を設けるなど城跡正面である石垣や久松山を見せることも考慮し整備を行いました。また、景観を構成する素材は、城跡正面への景観と一体化させる落ち着いた色彩等を選定しています。

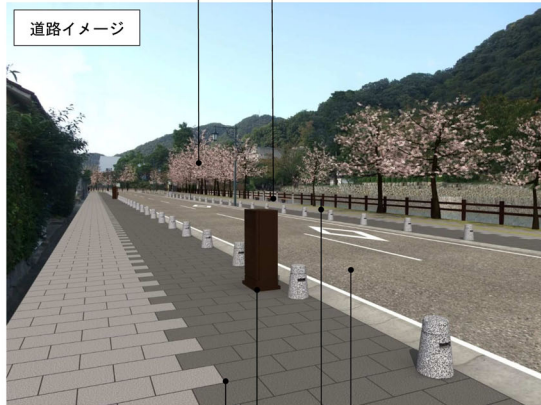
計画コンセプト説明資料

桜を基本的に残しつつ、石垣への視界を確保し、歩行者が水際に近づける空間を創出。

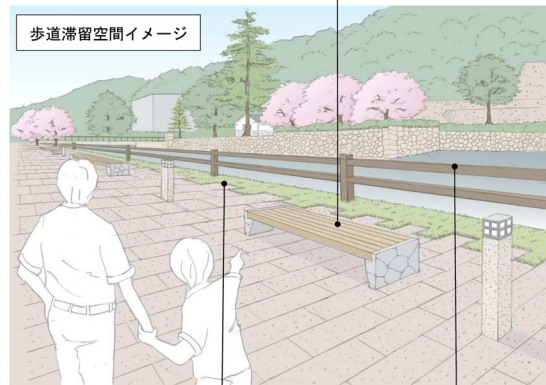
久松山を背景として、城跡、仁風閣、石垣の変化、擬宝珠橋等に重点を置き、これらが立体的に見渡せるビューポイントとして選定。



歩道滞留空間からのビュー



道路イメージ



歩道滞留空間イメージ

自歩道スペースを色分けし安全な歩行空間を確保。

地上機器は、電力会社等による維持管理の容易さに配慮。

江戸時代のイメージに近い土色かつ、耐久性のある自然色舗装。

視覚障がい者に配慮した誘導ブロックを配置。

舗装端部を植栽帯に馴染ませるよう緑石を撤去。

擬宝珠橋に馴染み、より時代感を感じられる県内産材による木柵を配置。



整備前



整備前



整備後



整備後

(3) 景観素材等詳細

○舗装

車道舗装は、古絵図を参考に江戸時代のイメージに近い土色かつ、耐久性のある自然色舗装（脱色アスファルト）を採用し、材料は京都府産の城陽砂利を使用しました。

史跡鳥取城跡の正面玄関として生まれ変わった擬宝珠橋の袂に、江戸時代を追体験できる空間を創出し、かつイベント時に歩車道をエントランス広場として一体的に活用できるよう、車止めを着脱式、歩道舗装を車道と同じ土色で整備しました。

歩道の平板ブロックは、端部を植栽帯に馴染ませるよう縁石を設けない構造としています。また、安全な歩行空間を確保するため、歩行者と自転車通行帯の色を分けるとともに、既存の段差の解消を図りました。

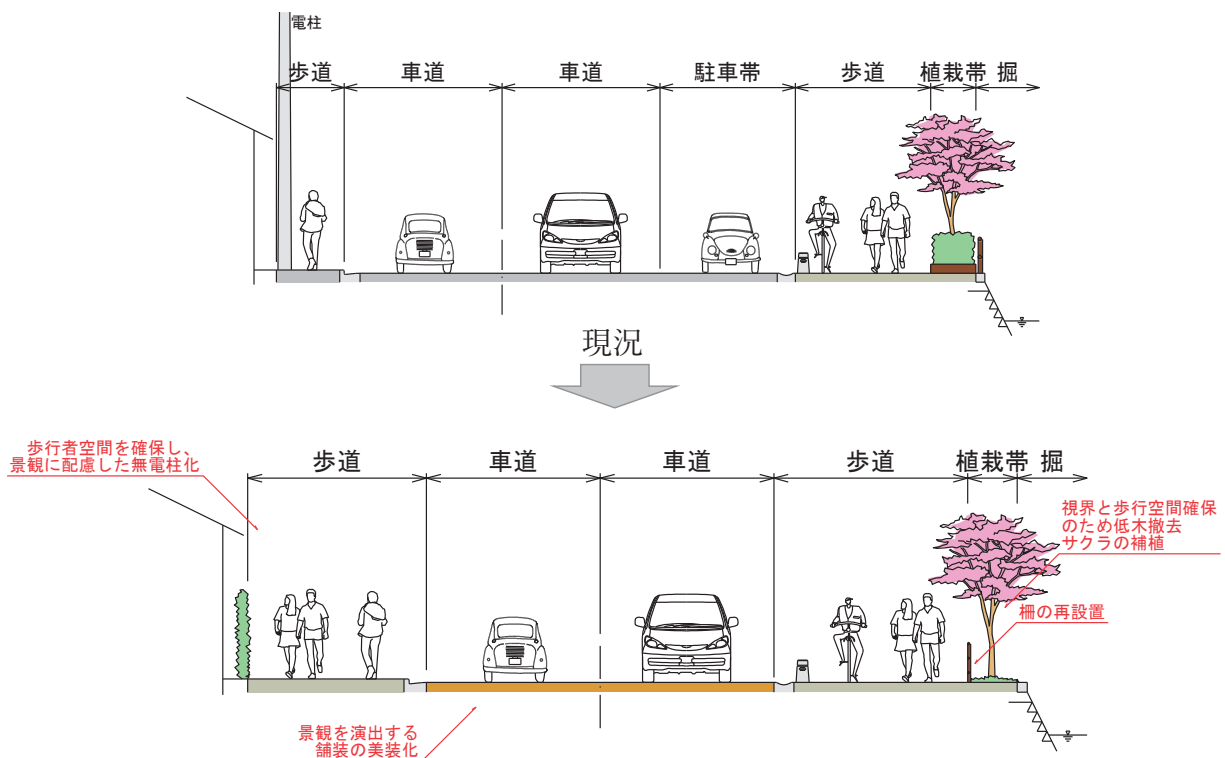


古絵図

(鳥取県立公文書館 1994『鳥府志図録』より転載)



市道山の手通りの歩道



お堀端道路整備イメージ

(※現況駐車帯がある箇所の場合)

○ビューポイント

お堀沿いの道路は約 400m の延長があり、観光客や歩行者が景色を楽しみながらゆっくりと休憩できる空間の創出に努めました。久松山を背景にして、城跡、仁風閣^{じんふうかく}、石垣の変化、擬宝珠橋^{ぎぼしぼし}に重点をおき、これらの施設が立体的に見渡せる場所をビューポイントとして選定し、滞留空間を設けています。



ビューポイント①



ビューポイント②

○柵

お堀沿いの柵は、歩行者がサクラや水際に近づけ、より開放的な歩道空間を創出するため、できるだけお堀沿いに配置しています。また、材質については復元した擬宝珠橋^{ぎぼしぼし}に馴染み、より時代感を感じられるよう、地元県内産を使った木製の柵とし、ビューポイントからの視界を妨げない高さのものを選定しました。

○植栽帯

鳥取城跡周辺は日本のさくら名所 100 選に指定されており、開花時期には多くの花見観光客で賑わっています。お堀端の植栽帯は、春の城跡を彩る既存のサクラを残しながら、石垣への視界を阻害している低木類や植栽帯を撤去して、歩行者が水際に近づける開放的な空間とし、また既存のサクラの間隔が広い（6～8m 以上）箇所については、補植を行うことで連続的な景観を創出しました。

○その他

無電柱化に伴い設置された地上機器、市道山の手通りに隣接する久松小学校及び鳥取西高テニスコートの外構は景観に配慮したブラウン系を選定し、色彩の統一を図りました。



久松公園の花見



テニスコートの外構

4. 事業実施の効果と今後の取り組みについて

鳥取城跡周辺の観光施設である鳥取県立博物館・仁風閣^{じんふうかく}の2施設の入込客数は、新型コロナウイルス感染拡大前と比較すると減少したものの、コロナ禍における現在の入込客数は、市道山の手通り整備後徐々に増加し回復傾向にあります。

| | 令和2年度 (整備期間中) | 令和3年度 (整備後) |
|------------------|------------------|--------------------------|
| 観光施設2施設の入込客数(合計) | 123,829人 | 130,246人 (前年度比105.1%) |

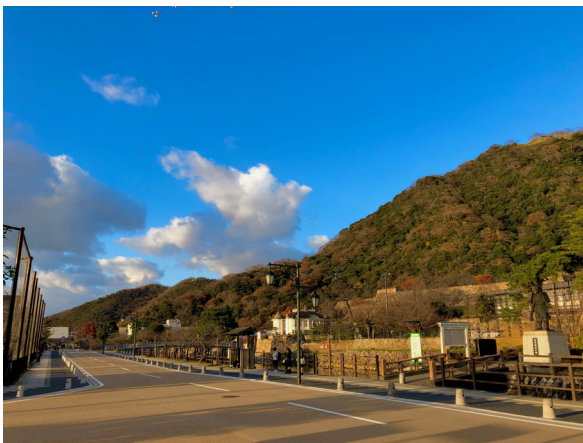
今後は、鳥取城跡については保存整備基本計画に基づき2020年代後半までに大手登城路^{おおてとじょうろ}全体の整備が完了する予定であり、鳥取城の象徴でもある「二ノ丸三階櫓^{にのまるさんかいやぐら}」の復元にも着手したいと考えています。

また、仁風閣^{じんふうかく}については令和4年度から文化財保護修理事業に着手し、令和6年度から本格的な耐震補強工事を実施、令和10年度にリニューアルオープンを目指すなど、歴史的・文化的資源等を活用した一体的な整備に引き続き取り組んでいきます。

5. おわりに

久松地区は、良好な景観の形成に資することを目的として毎年実施されている「令和4年度都市景観大賞(国土交通省後援)」において、市道山の手通り街なみ環境整備及び擬宝珠橋・中ノ御門表門^{なかのごもんおもてもん}の復元整備等が評価され、「都市空間部門」優秀賞を受賞しました。今後もより一層魅力ある久松地区とするためにも、久松山周辺の景観・賑わいづくりを進めていきます。

歴史・文化と自然が調和した鳥取城跡、久松公園にぜひおいでください。



市道山の手通りの景観



なかのごもんおもてもん
中ノ御門表門竣工イベント